

別表第1（第5条関係）

事 務 事 業 評 価 シ ー ト

評価対象年度 平成 19 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	冬期スクールバス運行費				
担 当 課 係 名	学 校 教 育 課		学 校 教 育 係	作 成 者	富岡明
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	明日を担う人材を育む教育文化のまち			総合計画の ページ
	基本計画	学校教育の充実と教育環境の整備			
	主要施策	地域に開かれた特色ある学校教育の推進			94
予 算 費 目	一 般 会 計	10 款 教 育 費	2 項 小 学 校 費	2 目 教 育 振 興 費	
事 業 期 間	平成 年度 ～ 平成 年度		新規／継続の区分		
性 質 区 分	☒ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				
根 拠 法 令 等	仙北市冬期スクールバス運行規定				
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務				
運 営 方 法	☐ 直 営 ☐ 直営（一部民間委託） ☒ 民間委託(全部) ☐ 補 助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	神代地区の小学生、幼稚園児
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	冬期における標記児童の通学、通園困難を解消する
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	神代西部地区、黒倉・早稲田地区、生田地区及び大船・東田地区を対象にバス会社に委託して冬期間朝夕1回ずつ通学バスを運行してもらう。

【事務事業の推移】

(単位：千円)

	項 目		単位	18年度実績	19年度実績	年度実績	
効果	活動指標	4 区間運行延べ本数	本	608	616		
	成果指標	4 区間運行延べ人数	人	17,632	16,170		
投下コスト	項 目		総事業費	18年度決算額	19年度決算額	年度決算額	
	事業費（人件費を除く）(A)			9,345	9,345		
	財源内訳	国 庫 支 出 金					
		県 支 出 金					
		地 方 債					
		そ の 他					
		一 般 財 源		9,345	9,345		
		人 件 費 (B)		—	785	807	
	職 員 数		—	0.1	0.1		
	職 員 平 均 人 件 費		—	7,853	8,071		
	(A) + (B) 投下コスト		—	10,130	10,152		
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト (円)		—	16,661	16,481	
				—			
市民1人当たりのコスト (円)		—	318	323			

【事務事業の今までの成果】

冬期間において１８年度１日あたり１１６名、１９年度１日あたり１０５名の利用者あり

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	民間バス路線が廃止されており、市民バスあるいはデマンド型の運行形態となってきた。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	冬期間は除雪による滞雪で狭隘および視界不良で通学路は危険であり、保護者にとっては継続を期待されている事業と思われる。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性		判 定 に 至 っ た 理 由
B	A	現状のまま継続（実施）	冬期スクールバスには有効性や必要性が十分認められるが現在、事業者が特定されているため複数の業者の参入を促すなど改善の余地がありB判定とした。
	B	見直しの上で継続（実施）	
	C	大幅な見直しの上で継続（実施）	
	D	休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

民間委託により確実性があるが、委託業者が特定されるため複数の業者の参入が望まれる。

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
C	冬期スクールバス運行は、広大な学区を考慮した場合必要な事業であるが、今後は運行内容の検討や複数の事業者の参入の可能性など検討をいただきたい。 また、路線バスの見直し等が行われた場合の影響など今後の動向にも考慮しなければならないと考える。

一次評価診断図

